

天路讚仰

ゆつくり遠くまで

原田嘉悦兄へー

ゆつくり

遠くまで行かうよ

息を切らさないやうに

行路病者にならないやうに

足下の覚束ない夜があれば

一望千里、輝く朝もあるであらう

焦らず、迫らず

恒に、等分の力を出して

扨て、ゆつくり

遠くまで行かうよ

愛は惜しみなく奪ふ

あますなく欲りし給へば

惜しみなく捧げざらめや

我が最も小さな

喜びや

悲しみや

はた苦しみもまた・・・

君ゆゑにわれは生き

君ゆゑにわがいのち

永久とこしへに誓よき匂ひ放てり

郷愁

君が面輪つねにはつきりとわが裡に住まひ

君がみ聲絶えず凜々とわが裡にひびかひ

君がみ心限りなくわれをつゝめば

ああ故郷ふるさとは讃むべきかな

こよひ、晩鐘の彼方

夕映えの空を拜して

心しみじみ思ふかな

嗚呼君がみ心に生きばやとこそ・・・

死

そんなに私が可愛いと云ふなら

さあお前の腕に力をこめて

もつと、しつかり、私を抱擁しておくれ

お前は善良なる同居人、親愛なる友

さうして私の忠實なる僕よ

お前が、恒に、傍に居てくれるゆゑ

愚かな私も、どうやら怠け者にならずにすんでゐる

噫、やがて私の生涯が終る時

私はお前の媒介で

み父の前に、輝く花婿になるのです

(昭和十六年「山桜」一月号)